

カラフトマス 日本系

Pink Salmon, *Oncorhynchus gorbuscha*



管理・関係機関

北太平洋溯河性魚類委員会（NPAFC）
日口漁業合同委員会

漁業の特徴

主に北海道北東部沿岸の産卵河川周辺で夏～秋季に定置網で漁獲される。広く北太平洋を回遊するが、北太平洋公海のさけます漁業は禁止されている。他国 200 海里水域内での漁獲量は不明である。

生物学的特性

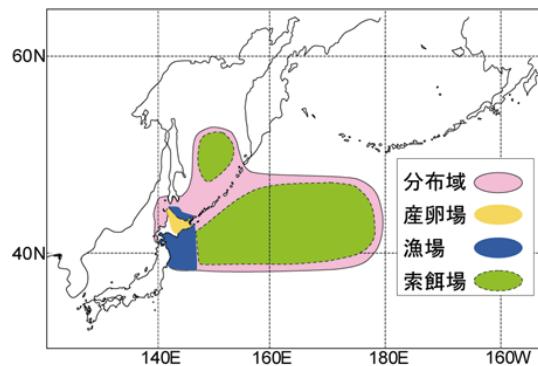
- 体長・体重：尾叉長 50 cm・1.5 kg
- 寿命・成熟年齢：ほぼ全てが 2 歳
- 産卵期・産卵場：8～10 月、北海道北東部に流入する河川
- 索餌期・索餌場：夏期・北西太平洋
- 食性：水生昆虫（河川）、動物プランクトン・マイクロネクトン（海洋）
- 捕食者：鳥類・オショロコマなど魚類（幼魚）、ネズミザメなど大型魚類・おっとせいなど海産哺乳類（未成魚・成魚）

漁獲の動向

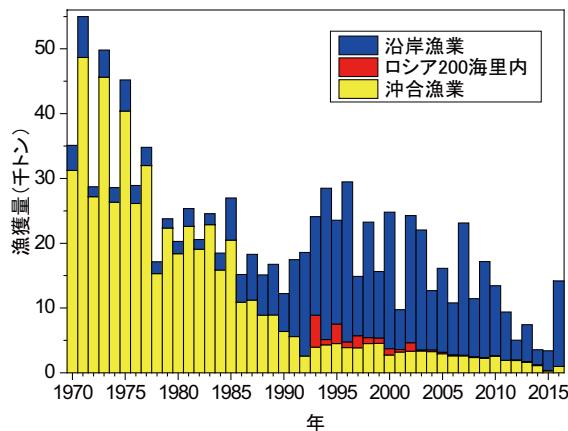
1970 年代から沖合域での漁獲量は減少し、沿岸域の漁獲量が増加した。沿岸漁獲尾数は、1990 年代に急増し偶数年と奇数年の差も広がった。しかし近年、奇数年と偶数年で一定の豊凶が見られるものの、そのパターンの持続性は不明瞭になり、日本系カラフトマスは不安定な資源動向にある。2016 年漁期（7 月以降）の沿岸漁獲量は 12,351 トン（814 万尾）と増加したが、2017 年漁期の沿岸漁獲量（速報値）は 1,713 トン（105 万尾）で、過去 35 年間で最も低い漁獲量となった。最近 5 年間（2012～2016 年）の沖合を含む漁獲量は 3,000～14,000 トンであった。

利用・用途

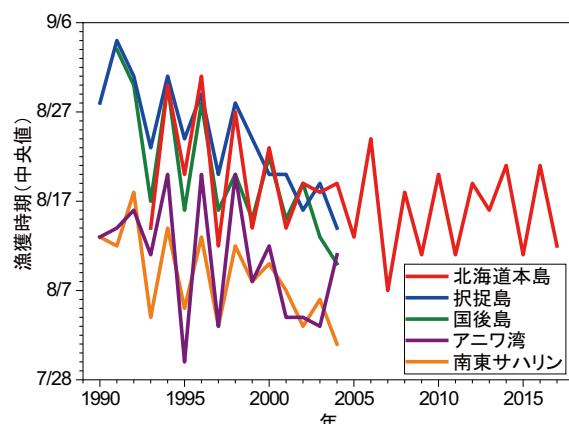
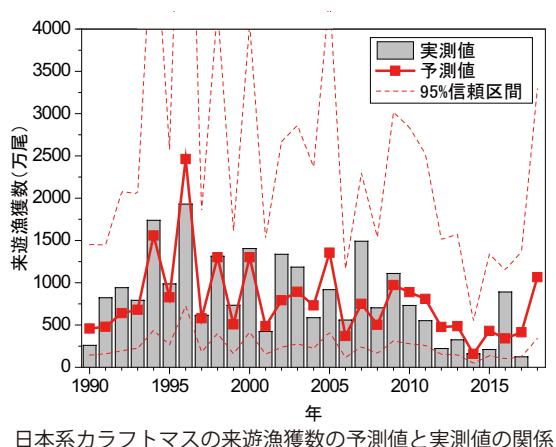
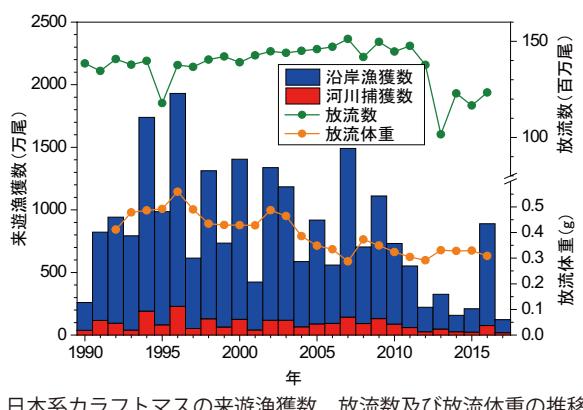
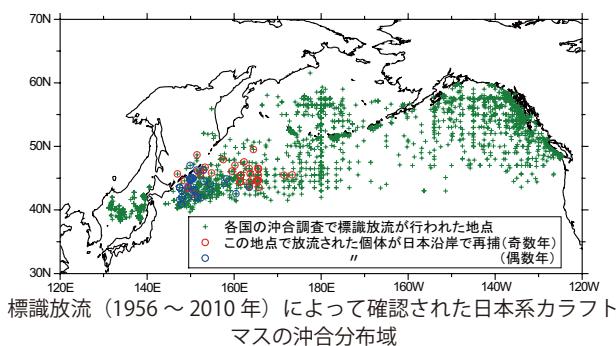
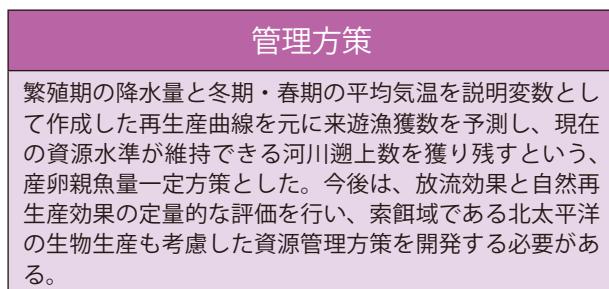
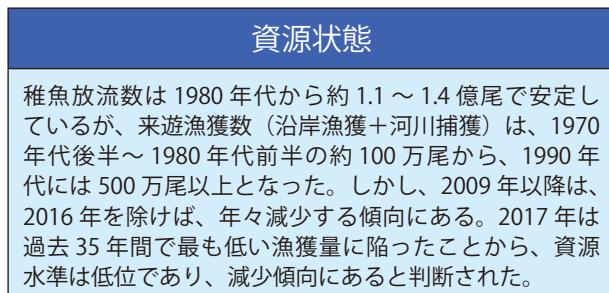
用途は広く、塩蔵品、生鮮、缶詰等がある。魚卵製品として、筋子（ます子）がある。



日本系カラフトマスの主たる分布域（高木ほか 1982 を改変）



日本の漁業におけるカラフトマスの漁獲量経年変化



カラフトマス（日本系）の資源の現況（要約表）

資源水準	低 位
資源動向	減 少
世界の漁獲量 (最近 5 年間)	504.1 ~ 708.4 万トン 最近（2016）年：513.6 万トン 平均：584.1 万トン（2012～2016 年） (注：日本系以外も含む)
我が国の漁獲量 (最近 5 年間)	約 3,000 ~ 14,000 トン 最近（2016）年：14,160 トン 平均：6,700 トン（2012～2016 年） (注：日本系以外も含む)
日本系カラフトマスの 我が国の沿岸漁獲量 (最近 5 年間) ※	約 1,700 ~ 12,000 トン 最近（2017）年：1,700 トン 平均：4,800 トン（2013～2017 年）
管理目標	現在の資源水準の維持 目標値：平均沿岸漁獲数 (過去 10 年) 4.5 百万尾
資源評価の方法	沿岸漁獲量および河川捕獲数により 水準と動向を評価 再生産モデルによる解析
資源の状態	2017 年の沿岸漁獲数 / 目標値 = 0.24
管理措置	産卵親魚量一定方策 持続的河川捕獲数 1.0 百万尾 稚魚放流 1.2 億尾 幼魚・未成魚期・成魚期 EEZ 外、成 魚期河川内禁漁
最新の資源評価年	2017 年
次回の資源評価年	2018 年

※これ以外の漁期・漁法でも日本系は、他の系群とともに漁獲されるが、その混合量の推定は困難である。